

【狭山事件を考える人間地区住民の会 武井 誠 さんのお話】

こんにちは。私は、狭山事件を考える人間地区住民の会の事務局長しております武井と申します。仕事は坂戸市の市議会議員をしております、今日は水防演習というのが坂戸市であり、高麗川の川原で近隣町村を含む大規模な水難訓練をやってきました。いま着ている服は水防演習のときの議員のユニフォームですが、着替える時間がなかったものから目立つ格好のままでおじゃまして、驚かせてしまいすみませんでした。岡野さんは毛呂山町の町議会議員で社民党です。私も社民党ですので、連携してがんばっているところです。三吉さんは川越の住民の会の会員ということでいっしょにおじゃまさせていただいております。

改めて、ようこそ狭山においでくださいました。今日は午前中現地を回られたと思いますが、暑かったんじゃないですか？ お疲れ様でした。心から連帯の気持ちを表明させていただきます。私は皆さんに支えられてやっているんですけども、数年間やっている中で取り組んできたこと等をいくつか報告させていただきます。

私はあらゆるところで、狭山事件の話をしていこうとがんばっています。ちょっといい話を先にさせていただくと、私の息子が自分の子が通っている保育園で狭山事件の話をしてくれ、そして、保護者の人たちで現地調査をしようという話が持ち上がっています。私も、何としても若い世代にわかってもらいたいという思いがあります。息子は若いといっても37歳ですけども、私は「30代ぐらいの子育て中の人たちに喜んで狭山を案内するよ」ということで、今連絡をとっているところです。

それから、皆さんもいらっしゃったかもしれませんが、石川さんが不当逮捕された5月23日に狭山の大きな集会が今年は日比谷野外音楽堂でありました。県南・支援する会の掛飛さんが「チラシを現地で配ることに意味がある」と提起しまして、23日は10時から数人でしたが狭山市駅前での行動をして、日比谷での集会にはぎりぎり間に合うような形で参加しました。やはり狭山事件のことを知っている方もおられて、チラシの受け取りがよかったです。狭山事件は部落差別という問題もあるのですが、運動が広がらないというか、表で先頭に立ってはなかなかやりにくいという現地なりのむずかしさもあるやに聞いて事務局長になりました。でも思い切ってチラシを配ってみると、わかっている人とか、まだ狭山事件は解決していないのかと言う人とか、子どものころのことを知っている人とか、事件についていろいろなことを覚えておられる高齢の方とかがいらっしゃって、そういうところでチラシを配れるのは非常に意味のあることでした。予想以上にチラシの受け取りがよく、



人間地区住民の会 武井誠さん

社民党のチラシよりもよいくらいで社民党もがんばらなければと思ったりもしましたが、やはり「おかしいものは、おかしい」と言う人が増えていくことが結局司法を動かすことになると思います。

もう一点、狭山事件の全国集会に小林節さんという憲法学者が見えまして「これだけ司法が反動化して、政治家がウソをついてもまかり通る、検察もそういう人を見逃す、そのような政治が変わらないと狭山事件は解決しない」というようなスピーチをされました。そのあと布川事件の冤罪被害者である桜井昌司さんがステージに立って「おっしゃることはわからないことはないけれども、どんなに反動的な政権であろうとも、狭山事件が冤罪であることは明らかなだ。これを冤罪ではないという人は、まともな神経ではない人だ。だから、逆にここを突破することが世の中をよくしていくきっかけにもなるから、がんばって狭山事件を支援していこう」と発言されました。

私は興味深くというと不謹慎かも知れませんが、二人のスピーチを聞き比べ平凡ですが「両方とも大事だ」と思いました。片方をがんばることはもう片方の前進につながるのだから、今できることをがんばろうと改めて思いました。

関連してですけれども、このごろ本当に腹が立つことが多くありませんか？ セクハラだとか、隠蔽だとか、改竄だとか、ウソをつくとか、奇を衒(てら)ったような記者会見だとか、言ったら切りがありませんが、ああいうのにだんだん疲れてくるんです。次から次に出てきて開いた口が塞がらないというか「政治なんてもういいや。こっちから見放してやる」みたいな気持ちになります。じつは為政者はそれを待っているような節もありますから、私たちは狭山事件も含めて粘り強くやらなくてはいけないと思います。

このあいだ、東武鉄道の労働組合の労働学校で3時間ほど講義をする機会がありまして、どのようにしてそういう怒りを持続するか、意欲を維持するかというようなことを、よく言えば丁寧に、悪く言えば回りくどく話しました。そうしたら、聞いていた40歳ぐらいの人が私が3時間かけて話したことを5分でまとめ「現場に行くこと、現地で当事者の話を聞くことが大事ということがよくわかりました」と言いました。そこでは幅広く話をしましたが、原発の被災者に会ってその人がどんな苦しみを味わったかをまっすぐに聞いたらその人のことを裏切ることはできない。沖縄に行って辺野古を見て沖縄の人がどのような差別を受けているかを自分で見て感じたら、やはり沖縄の人の痛みが自分の痛みになるというようなことです。これは、狭山事件についても冤罪事件についても全く同じだと思います。ですから、私は逆にその人から現地調査の大切さを教わったような「ああそうか。その通りだ」と、こちらが勉強をさせてもらったような時間を過ごさせていただきました。そういう意味で狭山事件にこだわって闘うという決意を皆さんと共有してごあいさつにしたいと思います。